

令和4年度(第49回) 北海道地区 トラックドライバー・コンテスト学科競技 問題用紙

(競技時間:60分間)

会場：札幌市手稲区曙5条4丁目「札幌運転免許試験場」

注意事項	携帯電話等の電源を「オフ」にする！！
<p>① 解答はすべて別紙の<u>解答用紙(マークシート方式)</u>に記入すること。</p> <p>② 解答用紙(マークシート方式)は、鉛筆を使用して必要な箇所にマークすること。 なお、誤ってマークした場合は、跡の残らないように消しゴムで消すこと。</p> <p>③ 開始前に必ず解答用紙の<u>該当部門を○で囲み、番号、氏名を記載すること。</u> この問題用紙は、競技開始の合図があるまで開かないこと。</p> <p>④ 問題用紙を一通り見て、印刷の不鮮明なところがあれば挙手をして係員に申し出ること。</p> <p>⑤ 問題用紙に、メモ等を書き込んでも差し支えない。問題用紙は選手がそのまま持ち帰ること。</p> <p>⑥ <u>試験開始45分経過後</u>より退出してよいが、解答用紙は机上に伏せて、他の選手の妨げにならないよう静かに退出すること。一度退出したら再入室は認めない。</p> <p>⑦ 競技時間については、<u>競技終了10分前と5分前に終了を予告</u>する。</p> <p>⑧ 落とした筆記記具の拾得等、競技時間中に何らかの問題が生じた場合は、挙手をして係員に申し出ること。</p> <p>⑨ 競技問題は、Ⅰ 法規及びⅡ 構造機能等に<u>5肢択一問題</u>があることに注意すること。</p>	

I 法規（40問）

【4肢択一式問題】

問1. 信号に関する次のア～エの記述のうち、正しいものはいくつあるか。解答用紙の該当する欄にマークを付けなさい。

- ア 赤色の点滅信号の場合は、車両は停止位置で一時停止しなければならないが、歩行者はほかの交通に注意して進行することができる。
- イ 青色の右折矢印信号の場合は、右折できるが転回ができない。
- ウ 対面する信号が青の場合は、軽車両を含めて全ての車両は直進、左折、右折ができる。
- エ 対面する信号が黄色の場合は、停止位置に近接しているため安全に停止できない場合を除いて、停止位置で停止しなければならない。

- 1 一つ
- 2 二つ
- 3 三つ
- 4 四つ

問2. 「駐車禁止場所」に関する次のア～エの記述のうち、正しいものはいくつあるか。解答用紙の該当する欄にマークを付けなさい。

- ア 火災報知器から3メートル以内の場所
- イ 駐車場、車庫などの自動車用の出入口から3メートル以内の場所
- ウ 道路工事が行われている場合における当該工事区域の側端から5メートル以内の場所
- エ 消火栓、指定消防水利の標識が設けられている位置又は消防用防火水槽の吸水口若しくは吸管投入孔から5メートル以内の場所

- 1 一つ
- 2 二つ
- 3 三つ
- 4 四つ

問3. 道路交通法に定める自動車の法定速度についての次の記述のうち、誤っているものを1つ選び、解答用紙の該当する欄にマークを付けなさい。

1. 貨物自動車運送事業の用に供する車両総重量5,995キログラムの自動車の最高速度は、道路標識等により最高速度が指定されていない片側一車線の一般道路においては、時速60キロメートルである。
2. 貨物自動車運送事業の用に供する車両総重量7,520キログラムの自動車は、法令の規定によりその速度を減ずる場合及び危険を防止するためやむを得ない場合を除き、道路標識等により自動車の最低速度が指定されていない区間の高速自動車国道の本線車道（政令で定めるものを除く。）における最低速度は、時速50キロメートルである。
3. 貨物自動車運送事業の用に供する車両総重量7,950キログラム、最大積載量4,500キログラムであって乗車定員2名の自動車の最高速度は、道路標識等により最高速度が指定されていない高速自動車国道の本線車道（政令で定めているものを除く。）においては、時速80キロメートルである。
4. 貨物自動車運送事業の用に供する車両総重量が4,995キログラムの自動車が、故障した車両総重量1,500キログラムの普通自動車をロープでけん引する場合の最高速度は、道路標識などにより最高速度が指定されていない一般道路においては、時速40キロメートルである。

問4. 交差点の通行に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選び、解答用紙の該当する欄にマークを付けなさい。

1. 交差点を左折するときは、横断歩行者や自転車がいないことが明らかな場合には徐行せずに通行する。
2. 右折するときは、あらかじめできる限り道路の中央に寄り、交差点の中心の直近の内側（道路標識等により通行部分が指定されている場合を除く）を徐行せずに通行する。
3. 右折するために、直進車や左折車よりも先に交差点に入った場合には、直進車や左折車よりも先に右折することができる。

4. 交通整理の行われていない交差点において、通行している道路よりも交差道路の道幅のほうが明らかに広いときは、徐行するとともに、交差道路を通行する車両等の進行妨害をしてはならない。

【○×正誤式問題】

次の問5から問40までの設問について、正しいと思うものについては解答用紙の○の欄に、誤っていると思うものについては解答用紙の×の欄に、マークをつけなさい。

- 問5. 妨害運転（あおり運転）によって高速自動車国道等において他の自動車を停止させ、その他道路における著しい交通の危険を生じさせた場合、3年以下の懲役または50万円以下の罰金が科される。
- 問6. 交通整理の行われていない交差点で、交差道路が優先道路であるときは、一時停止をしなければならない。
- 問7. 駐車した場合、車の右側に3.5メートル以上の余地がなくなる場所での駐車はできないが、貨物の積卸しを行う場合で運転者がすぐに運転できるときは駐車できる。
- 問8. 「放置車両」とは、違法駐車と認められる場合における車両であって、その運転者がこれを離れて直ちに運転することができない状態にあるものをいう。
- 問9. 車両は、道路標識等により追越しが禁止されている道路の部分においても、前方を進行している原動機付自転車は追い越すことができる。
- 問10. 道路交通法でいう「進行妨害」とは、車両等が、進行を継続し、又は始めた場合においては危険を防止するため他の車両等がその速度又は方向を急に変更しなければならないこととなるおそれがあるときに、その進行を継続し、又は始めることをいう。
- 問11. 車両等は、環状交差点に入ろうとするときは、徐行しなければならない。
- 問12. 道路交通法でいう「徐行」とは、車両等が直ちに停止することができるような速度で進行することをいう。

問13. この標示のあるときは、前方の信号が赤であっても、他の交通に注意しながら左折することができる。



問14. 制限外の許可を受けて分割できない積載制限を超える貨物を輸送する場合は、昼間は0.3メートル平方以上の赤色の布を、夜間は赤色の灯火又は反射器をつける必要がある。

問15. 車両横断禁止の標識がある場所では、車両は道路の右側部分にある駐車場などの施設に入るために右折する場合であっても、道路を横断することができない。

問16. 信号機のある交差点において、信号機は青信号だったが、警察官の手信号による指示は「停止」だったので、警察官の指示に従って停止した。

問17. 道路交通法でいう「車両」とは、自動車、原動機付自転車、及びトロリーバスをいい、自転車などの軽車両は含まれない。

問18. 車道から歩道を横切って道路に面した施設などに入る場合、明らかに歩行者がいない場合は、一時停止の必要はなく、徐行して歩道を通過することができる。

問19. この標識のある道路は、車両区分を問わず、貨物自動車は通行できない。



問20. 白の実線と白の破線の2本線で示された路側帯の場合は、その中に入って駐停車することはできない。

問21. 横断歩道及びその手前の側端から前に50メートル以内の場所は追越しが禁止されている。

問22. 道路交通法でいう「重被牽引車」とは、牽引されるための構造及び装置を有し、かつ、車両総重量が750キログラムを超えるものをいう。

問23. 「警笛区間」の標識のある区間内を通行するときには、危険と感じた場所で警笛を鳴らさなければならない。

問24. この標識は Y 形道路交差点があることを示している。



問25. 警察官は、過積載と認められる車両が運転されているときは、当該車両を停止させ、積載物の重量を測定することができる。

問26. 勾配の急な上り坂や下り坂は徐行する。

問27. この道路標示は、前方に横断歩道又は自転車横断帯があることを示している。



問28. 右左折しようとするときは、その行為をしようとする時の 3 秒前のときに合図しなければならない。

問29. この標識のある場所は、普通乗用車と自動二輪車は通行できないが、それ以外の車両は通行できる。



問30. 左右の見通しがきかない交差点で、信号機の信号が青色のときは、徐行せずそのまま通行してよい。

問31. 車を運転中、大地震が発生したので、道路の左側に寄せて駐車し、エンジンを止め、エンジンキーを抜き、窓を閉め、ドアをロックして避難した。

問32. 道路の左側部分に設けられた安全地帯の側方を通過する場合は、安全地帯に歩行者がいないときでも徐行しなければならない。

問33. 坂道では、下りの車が上りの車に道をゆずるのが原則であるが、近くに待避所がある場合は、上りの車でも待避所に入って待つようにするのがよい。

問34. 砂利道や積雪などでは、「停止線」標識が設置されていることがあるが、この場合の停止位置は、標識の直前となる。

- 問35. 荷物が分割できないため、積載物の長さが規定を超える場合は、目的地の警察署長の許可を受けると積載して運転することができる。
- 問36. 道路の曲がり角から5メートル以内の場所は、荷物の積卸しのための5分以内の停止であれば駐車してもよい。
- 問37. 自動車を後退させるときは、シートベルトを着用しなくてもよい。
- 問38. 夜間は交通量が少ないので、道路上の同じ場所に引き続き8時間以上駐車してもよい。
- 問39. 踏切を通過しようとするときは、まず踏切の直前（停止線があるときは、その直前）で一時停止をし、自分の目で直接左右の安全を確かめれば十分である。
- 問40. 第一種運転免許は、大型免許、普通免許、大型二輪免許、普通二輪免許、原付免許の5種類である。

Ⅱ 構造機能等 (20 問)

【4 肢択一式問題】

問41. 事業用貨物自動車の日常点検について、次の点検内容のうち、毎回点検することが義務づけられているものはいくつあるか。解答用紙の該当する欄にマークを付けなさい。

- ア ブレーキ・ペダルの踏みしろが適当で、ブレーキの効きが十分であること。
- イ タイヤに異状な摩耗がないこと。
- ウ エンジン・オイルの量が適当であること。
- エ エア・タンクに凝水がないこと。

- 1、一つ
- 2、二つ
- 3、三つ
- 4、四つ

問42. 次のア～エの自動車のうち、道路運送車両法に規定する「自動車の種類」に当てはまらないものはいくつあるか。解答用紙の該当する欄にマークをつけなさい。

- ア 大型自動車
- イ 中型自動車
- ウ 普通自動車
- エ 小型自動車

- 1、一つ
- 2、二つ
- 3、三つ
- 4、四つ

問43. 道路運送車両の保護基準及びその細目を定める告示について、次の記述のうち、誤っているものを一つ選び、解答用紙の該当する欄にマークをつけなさい。

1. 自動車の車体後面には、最大積載量（タンク自動車にあつては、最大積載量・最大積載量容積及び積載物品名）を表示しなければならない。
2. 貨物の運送の用に供する普通自動車であつて車両総重量が7トン以上のものの後面には、所定の後部反射器を備えるほか、反射光の色や明るさ等に関し、告示で定める基準に適合する大型後部反射器を備えなければならない。
3. 貨物の運送の用に供する普通自動車及び車両総重量が8トン以上の普通自動車（乗車定員11人以上の自動車及びその形状が乗用定員11人以上の自動車の形状に類する自動車を除く。）の両側面には、堅ろうであり、かつ、歩行者、自転車の乗車人員等が当該自動車の後車輪へ巻き込まれることを有効に防止することができるものとして、強度、形状等に関し告示で定める基準に適合する巻込防止装置を備えなければならない。
ただし、告示で定める構造の自動車にあつては、この限りではない。
4. 自動車に備えなければならない後写鏡は、取付部付近の自動車の最外側より突出している部分の最下部が地上2メートル以下のものは、当該部分が歩行者等に接触した場合に衝撃を緩衝できる構造でなければならない。

問44. 制動灯に関する記述のうち、誤っているものを1つ選び、解答用紙の該当する欄にマークをつけなさい。

1. 自動車（最高速度20キロメートル毎時未満の軽自動車及び小型特殊自動車を除く。）の後面の両側には、制動灯を備えなければならない。
ただし、二輪自動車等の一部の自動車には、制動灯を後面に1個備えていれば良い。
2. 制動灯は、灯器が損傷し、又はレンズ面が著しく汚損しているものではないこと。
3. 制動灯の灯火の色は、赤色であること。
4. 制動灯は、昼間にその後方200メートルの距離から点灯を確認できるものであり、かつ、その照射光線は、他の交通を妨げないものであること。

【○×正誤式問題】

次の問 45 から問 60 までの設問について、正しいと思うものについては解答用紙の○の欄に、誤っていると思うものについては解答用紙の×の欄に、マークをつけなさい。

- 問45. 道路運送車両の保安基準でいう「軸重」とは、自動車の車両中心線に垂直な1メートルの間隔を有する2平行鉛直面に中心のあるすべての車輪の輪荷重の総和をいう。
- 問46. 非常信号用具は、夜間100メートルの距離から確認できる赤色の灯光を発するものであること。
- 問47. 自動車は、告示で定める方法により測定した場合において、幅2.8メートルを超えてはならない。
- 問48. 貨物の運送の用に供する普通自動車であって、車両総重量が8トン以上又は最大積載量が5トン以上のものの原動機には、自動車が時速100キロメートルを超えて走行しないよう燃料の供給を調整し、かつ、自動車の速度の制御を円滑に行うことができるものとして、告示で定める基準に適合する速度抑制装置を備えなければならない。
- 問49. 停止表示機材は、夜間200メートルの距離から走行用前照灯で照射した場合にその反射光を照射位置から確認できるものであること。
- 問50. 自動車には（被けん引自動車を除く。）には、警音器を備えなければならない。
- 問51. 貨物の運送の用に供する自動車（告示で定める自動車等を除く）で、車両総重量3.5トンを超えるものの前面には、告示で定める基準に適合する前部潜り込み防止装置を備えなければならない。
- 問52. 車両総重量8トン未満の貨物の運送の用に供する自動車が、初めて自動車検査証の交付を受けた場合の有効期間は2年である。

- 問53. エンジンオイル量の点検は、平坦な場所で、エンジン始動直後に行う。
- 問54. 貨物の運送の用に供する普通自動車で、車両総重量が5トン以上のものには、消化器を備え付けなければならない。
- 問55. タイヤには、残り溝が1.6ミリメートルになると現れる「スリップサイン」が設けられている。
- 問56. 道路運送車両法で定める「車両総重量」とは、車両重量、最大積載量及び60キログラムに乗車定員を乗じて得た重量の総和をいう。
- 問57. 自動車の軸重は、10トン(けん引自動車のうち告示で定めるものにあつては、11.5トン)を超えてはならない。
- 問58. 12か月ごとの点検では、3か月ごとの点検箇所は特に異常が認められない場合には省略することができる。
- 問59. 自動車(二輪自動車、側車付二輪自動車及び被けん引自動車を除く。)の前面ガラスは、運転者が交通状況を確認するために必要な視野の範囲に係る部分における可視光線の透過率が75パーセント以上のものであること。
- 問60. 車線逸脱警報装置とは、自動車が走行中に車線から逸脱しようとしている、又は逸脱している旨を運転者に警報することにより自動車の車線から逸脱を防止する装置をいう。

Ⅲ 運転常識（20問）

【○×正誤式問題】

次の問 61 から問 80 までの設問について、正しいと思うものについては解答用紙の○の欄に、誤っていると思うものについては解答用紙の×の欄に、マークをつけなさい。

- 問61. 踏切とその手前 30 メートル以内の場所では、自動車や原動機付自転車を追い越すため、進路を変えたり、その横を通り過ぎたりしてはならないが、横断歩道や自転車横断帯とその 30 メートル手前では禁止ではない。
- 問62. 片側が 2 つの車両通行帯のあるトンネル内は、追越しが禁止されている。
- 問63. 夜間やむを得ず道路に駐停車するときは、非常点滅表示灯、駐車灯又は尾灯をつけなければならないが、30 メートル後方から見える場所に駐停車している場合は、その必要がない。
- 問64. 好天の昼間に暗いトンネルに入った際、徐々に目が慣れることを暗順応という。トンネルから出て目が慣れる明順応の方が回復する時間が早い。
- 問65. 睡眠時無呼吸症候群（SAS）は、睡眠中に呼吸が止まり、日中に強い眠気などの症状が出ますが、日頃から睡眠不足にならないようにしていれば、問題はなくその他合併症を引き起こすことはない。
- 問66. 交通事故の際、車が衝突した衝撃力は速度と重量に応じて大きくなり、この運動エネルギーは、速度の 2 乗に比例して大きくなるため、速ければ速いほど被害は大きくなる。
- 問67. 連続運転時間は 4 時間までで、それを超えて運転する場合には、1 回が 5 分以上、合計で 30 分以上の運転の中断（休憩等）が必要である。
- 問68. 他の自動車に追従して走行するときは、常に「秒」の意識をもって自車の速度と制動距離（ブレーキが効きはじめてから止まるまでに走った距離）に留意し、前車への追突の危険が発生した場合でも安全に停止できるよう、制動距離と同程度の車間距離を保って運転する。

- 問69. 路側帯の幅が 1.5 メートルあれば、その路側帯いっぱいに入って駐停車することで他の交通の妨害を避けることができる。
- 問70. バックアイカメラは、車両後部のすべての死角を運転席のモニターに写し出す装置であり、後退時の危険を確実に回避できるものである。
- 問71. カーブでは外側に遠心力が働くが、速度が増せば 2 乗に比例して大きくなり、又、カーブの半径が小さいほど遠心力は大きくなる。
- 問72. 常習的な飲酒運転の背景には、アルコール依存症という病気があるといわれているが、医師による治療を受け回復すれば再発することはない。
- 問73. 適性診断の判定は運転に適していない者を運転者として選任しないようにするために、ヒューマンエラーによる交通事故の発生を未然に防止する有効な手段となっている。
- 問74. 運転者の疾病により、事業用自動車の運転を継続することができなくなった場合、当該事故があった日から 30 日以内に自動車事故報告書を提出しなければならない。
- 問75. 点呼は対面で行うのが原則で、運行上やむを得ない場合に限り、電話その他の方法で行う事ができる。車庫と営業所が離れている場合や早朝、深夜等において点呼執行者が営業所に勤務していない場合などは、「運行上やむを得ない場合」に該当する。
- 問76. 1 日の拘束時間が 15 時間を超える回数は、1 週間につき 3 回が限度である。
- 問77. 右左折時、特に大型車の場合はオーバーハングのはみ出しに注意が必要であり、オーバーハングのはみ出しを小さくするため、ハンドルを一気にいっぱいに切らず、徐々にゆっくりハンドルを切るようにする。
- 問78. 他の運転者と交替して乗務を開始しようとするときは、当該他の運転者から法令に定める交替時の通告を受け、必要と認められる場合には当該事業用自動車の制動装置、走行装置その他の重要な装置の機能について点検をする。

問79. 酒気帯びの状態です業用自動車を運転し、交差点において出合い頭に乗用車と衝突した。この事故で乗用車の運転者1名が軽傷を負った。この場合、自動車事故報告書を提出する必要はない。

問80. 乗務前点呼において、運転者は配送経路が決まっているルート配送を20年担当していること及び国土交通省が告示で定める指導を毎月受けていることから、特に、運行の安全を確保するための指示は必要ない。

2022年度 北海道地区トラックドライバー・コンテスト 学科競技解答

I.法規

	4肢択一式
問1	2
問2	3
問3	3
問4	4

	正誤式
問5	×
問6	×
問7	○
問8	○
問9	×
問10	○
問11	○
問12	○
問13	×
問14	○

	正誤式
問15	○
問16	○
問17	×
問18	×
問19	×
問20	○
問21	×
問22	○
問23	×
問24	×

	正誤式
問25	○
問26	×
問27	○
問28	×
問29	×
問30	○
問31	×
問32	×
問33	○
問34	○

	正誤式
問35	×
問36	×
問37	○
問38	×
問39	×
問40	×

II.構造機能

	4肢択一式
問41	3
問42	2
問43	4
問44	4

	正誤式
問45	○
問46	×
問47	×
問48	×
問49	○
問50	○
問51	○
問52	○
問53	×
問54	×

	正誤式
問55	○
問56	×
問57	○
問58	×
問59	×
問60	○

III.運転常識

	正誤式
問61	×
問62	×
問63	○
問64	○
問65	×
問66	○
問67	×
問68	×
問69	×
問70	×

	正誤式
問71	○
問72	×
問73	×
問74	○
問75	×
問76	×
問77	○
問78	×
問79	×
問80	×